

2005 年度 小委員会活動成果報告

(2006 年 3 月 3 日作成)

小委員会名	ソフトコンピューティング研究小委員会	主 査 名：丸山能生 就任年月：2005 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	情報システム技術委員会	委員長名：新宮清志
設 置 期 間	2005 年 4 月 ~ 2009 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>【設置目的】 本小委員会はコンピュータを応用した新しい計算パラダイムであるソフトコンピューティング(人工知能, ファジィ理論, ニューラルネットワーク, 遺伝的アルゴリズム, 人工生命等)を調査・研究し, その成果を会員や社会に還元することを目的とする。</p> <p>具体的には, ホームページの運営, ソフトコンピューティングに関する情報収集と研究報告, 年 1 回の情報・システム・利用・技術シンポジウムでの研究集会の実施, ソフトコンピューティングに関する書籍の刊行およびそれを利用した講習会またはシンポジウムを行なう。</p> <p>【各年度活動計画】 初年度(2005 年度): ホームページの開設 ソフトコンピューティングに関する情報収集・研究報告 情報・システム・利用・技術シンポジウムで研究集会の実施 2 年度(2006 年度): ホームページの管理 ソフトコンピューティングに関する情報収集・研究報告 情報・システム・利用・技術シンポジウムで研究集会の実施 書籍刊行のための原稿執筆開始(後半) 3 年度(2007 年度): ホームページの管理 ソフトコンピューティングに関する情報収集・研究報告 情報・システム・利用・技術シンポジウムで研究集会の実施 書籍刊行のための原稿執筆, 脱稿 4 年度(2008 年度): ホームページの管理 ソフトコンピューティングに関する情報収集・研究報告 情報・システム・利用・技術シンポジウムで研究集会の実施 書籍の刊行及び講習会あるいはシンポジウムの実施</p>	
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：公募を行ったが応募無し	
	主査：丸山 能生(間組) 幹事：鷹 敏和(ダイダグン) 委員：入江 寿弘(日本大学) ・ 奥 俊信(大阪大学) 新宮 清志(日本大学) ・ 曾我部 博之(愛知工業大学) 谷 明勲(神戸大学) ・ 堤 和敏(芝浦工業大学) 野口 貴文(東京大学) ・ 橋本 幸博(職業能力開発総合大学校) 平塚 聖敏(日本大学) ・ 本間 俊雄(鹿児島大学) 三橋 平(筑波大学)	
設置 WG (WG 名：目的)	ソフトコンピューティング実例調査研究 WG 建築・環境・都市・社会に焦点を当て, ソフトコンピューティングの応用事例を体系的・網羅的に整理する。また, 建築・環境・都市・社会における諸問題を解決するソフトコンピューティング手法の研究を行う。	
2005 年度予算	310,000 円	ホームページ公開の有無： 有り 委員会 HP アドレス： http://news-sv.ajj.or.jp/jyoho/M060/

項 目	自己評価
委員会開催数	5 回（年度内計画を含む）
刊行物 （シンポジウム資料等は 除く）	
講習会	
催し物 （シンポジウム・セミナー・ 研究会・見学会等）	1．研究集会「生物的アプローチとソフトコンピューティング」 参加者数 23 名 2．第 26 回ファジィワークショップ～創造の語らい～ 日本知能情報ファジィ学会・日本建築学会共催，3 月 17,18 日開催予定 講演論文集
大会研究集会	
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	
目標の達成度 （当初の活動計画と得ら れた成果との関係）	<p>1．ホームページの開設 当初の計画通り，小委員会のホームページを開設した。日本大学のサーバを借用し，データベース機能を持ったホームページを試験的に作成した。これにより管理者でなくても資格のあるユーザであれば誰も議事録等のアップロードが出来るようになり，ホームページの迅速な更新が可能になった。今後，委員間の情報交換，協働等に利用するとともに，委員会活動の推進に有効な機能について検討する。</p> <p>2．ソフトコンピューティングに関する情報収集・研究報告 WG が中心になってソフトコンピューティング応用技術ノートの作成を進めている。1 年目として建築・環境・都市・社会の各分野に關係するソフトコンピューティング研究開発応用事例を約 70 件収集した。今後は概要等を統一書式で整理し，ホームページに掲載する予定である。</p> <p>3．研究集会の実施 当初の計画にしたがい，2005 年 12 月 8 日「生物的アプローチとソフトコンピューティング」のテーマで下記の内容の研究集会を開催した。 司会 鳶 敏和（ダイダ） （1）開会挨拶・主旨説明 主査 丸山 能生（間組） （2）特別講演「分子コンピューティングの現状と新展開」 山村 雅幸（東京工業大学・大学院総合理工学研究科） 司会 橋本 幸博（職業能力開発総合大） （3）話題提供 1）「セル・オートマトンを適用した土地利用形態の形成」 奥 俊信（大阪大学） 2）「生物的アプローチによる最適構造設計」 曾我部 博之（愛知工業大学） （4）全体質疑応答 （5）まとめ・閉会挨拶 本間 俊雄（鹿児島大学）</p> <p>4．シンポジウムの開催 研究報告の一環として日本知能情報ファジィ学会と共同でシンポジウムを開催する（2006 年 3 月 17,18 日，筑波大学東京キャンパス）。建築学会より 5 件（2 セッション）の発表が行われる予定である。</p>
委員会活動の問題点 ・課題	1．ソフトコンピューティング応用技術ノートの最終形態 技術ノートを基にした書籍刊行を小委員会の目的の一つとしているが，最終形態のイメージが固まっていない。4 年度（2008 年度）中に刊行するには 2 年度（2006 年度）中に原稿執筆開始まで持って行く必要がある。
その他	小委員会的前半に委員による話題提供を始めた。初回は 1 月 18 日開催小委員会で，本間委員（鹿児島大学）より「生物的アプローチによる形態発想支援システムの試み」と題して行った。次回小委員会以降も継続して実施する予定である。